

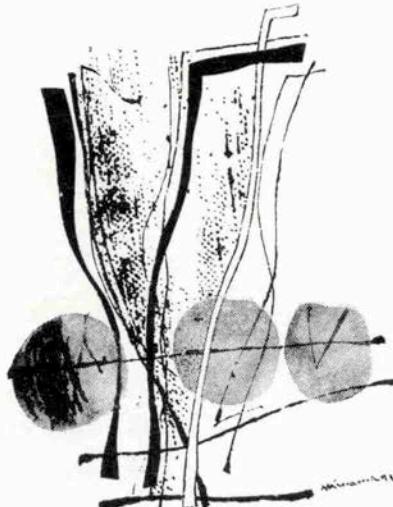
神戸から 広島通い

古林喜楽（広島商科大学学長）

え・南 和好

ことしの三月十五日に、岡山まで新幹線が開通して以来、私ほどこの新幹線を利用したものはあるまい。とにかく三月十五日に初乗りして、美しい記念絵葉書をもらい、味をしめてそれからは、毎週神戸から広島へ通勤しているのであるから、もう既に二十回近くも往復している。だから四十回ほど乗つたことになる。さてこうなると、乗りかたのコツが身につき、座席券が手に入らなくては、もう降りることになってしまつて、席をあたためる間もないというわけなのである。私にとっては座らない座席券を買うということになるのでどうも座席券を買うにはそもそも初めから気乗りがしないのである。むかし大阪から東京への特急が七時間ぐらいかかるときのころ、ビュフェでビールのグラスを傾けていて、偶然知友とめぐりあわし、話しこんでいるうちに、すわらぬままの座席となつてしまつたことさえある。

さてこの頃、神戸と広島とを往来していくのが、乗つてしまうと、一つ位はどこかに席があるものである。それに私は由来、座席券をもつても、あまり座席にすわらない悪いくせがあるので、ないと断わられることの方が多いのであるが、乗つてしまうと、一つ位はどこかに席があるといささか気に障ることは、今大いにうけている森進一の「港町ブルース」や「波止場まち」のなかに、函館から鹿児島にかけて数々の港、あとの



唄には横浜まで出てくるのに、天下の神戸港も、二つもある広島の港も、一向にでてこないことである。そこでそれならそれで、こちらで作って織りこんでやろうと車中のつれづれなるままに、駄句をひねり出してみた。

— 神 戸 —

丘にたたずみ 伏しみれば
内外の船が ゆれ動く
むせぶ汽笛に ネオンがまねく
港神戸メリケン 波止場まち

— 広 島 —

思いおこせば あのころは
江田島海軍兵学校
御国のために 勇んで船出
港宇品軍港 吳みなと

森進一のうたう歌詞は、切ない港まち情緒をただよわせていて、広島のは、いさか軍國調でそぐわないふしがないでもないが、なにぶん広島には海軍兵学校出身のものがかなりいるので、何げなしにつくつたこの私の唄も、案外うけているらしい。

かつて炭坑節が流行したとき神戸にはじまつて東京・静岡・京都・大阪とつくたが、広島になると、又悪いくせが出てきて、広島のもつくつてしまつた。

あなた一体全体どこの人

みめ麗わしき宮島で

胸は音戸の瀬戸になる
心平和通り氣は薬研堀

今の若者たちにとつては、八丁堀とか流れ川、新天地とかになるらしいが、古い広島にとつては薬研堀ということになるらしい。片手落ちにならないように、旧作ではあるが事のついでに、神戸の方も書き添えておこう。

あなた一体全体どこの人

姿舞子で目は垂水
足は長田で手は山手
心摩耶もや氣は生田

広島へ帰るときには、何となく広島が懐しく、又神戸へ帰るときはその時で、神戸が何とも懐しく、岡山であったふたと新幹線に乗りかかる。車中では車中で、さまざまの人と、食堂でのみかわし、珍しい話をきく。広島通いじゃお疲れでしょうネと人は心配してくれるのであるけれども、私にとっては、さほど苦痛でもない。何れも広島まで新幹線が開通し、神戸・広島間が二時間そこそこの通勤距離になつてしまつたら、時間の余裕がなくなつてしまつて、早すぎると嘆くようなことにもなりかねまじい。これはあながち、白髪の古来稀なるおじいちゃんの、負け惜しみではさらさらなく、いつわらざる私のこの頃の実感なのである。



古林 喜楽さん



男と女の 出会い

★インタビュー
長門裕之・南田洋子夫妻



連日、国際会館の前に老若男女を問わず長蛇の列が並ぶ。長門裕之、南田洋子、田崎潤、山田吾一、花紀京、その他多くの人気俳優のくりひろげる、長谷川幸延原作の『三亀松さのさ話』。この8月5日から19日の長期公演で稀代の紳人柳家三亀松を演する、稀代まれなおしどり夫婦の長門裕之・南田洋子夫妻をインタビュー。

★いい映画はいいのだ！

編集部 今度の三亀松は非常に長期公演なんですかね。神戸には今までにも公演でいらっしゃいましたか。

長門 一昨年に、「新夫婦善哉」で来ました。

編集部 昨日深夜放送で「王将」をやつしていましたが、あれは十年前の作品ですね。それに、「太陽の季節」からというと、もう何年ですか。

南田 あの作品は私が日活に入った三十一年ですから、もう十五年になりますね。最近の深夜劇場か何かでやっているのを見ると、まあかわいいものです。映画は、あのころはよかったですなあと思って見ると悲しくなりますが、面白、おかしく、懐しく見られるのは幸せだとつくづく思いますね。

長門 回顧的に残すのにはいいけれどね。不思議なことに、昔の名作というのは、今でも名作なんですね。例えば小津安二郎さんの作品なんか、あのセリフのテンポとかアングルのとり方などは現在のリズムに合わないだろうけれど、それ以外のものは認めますね。

南田 黒沢明先生のなどはやはりいいですね。このあいだ日本映画史みたいなのが長門が解説してやったんですが、それを見ていて、やはり巨匠といわれた黒沢先生の、『蜘蛛の巣城』なんかぞつとする位で、何といつてもいいものはいいと思いましたね。

長門 でも面白いのは、僕たちも映画史に残る仕事をしたいと思ってやっていたでしょう。ところが、映画の歴史を編纂していくと、いろんな形でポイントポイントに残っているんです。例えば名作ではないにしろ「太陽の季節」でも、日本映画史の一頁を飾っているんですか

ら。“あんちゃん”“豚と軍艦”など今までの一連の作品見ると、やはり映画界にてよかつたとつくづく思っています。ところが、我々が映画界を語る時、過去のものとしてしか語らないでしよう。つまり、今の映画界に現存している我々が映画を語るのではなく、回顧話になるのが残念です。映画界にいわせると、今は観客が悪いといいますのがね。

南田 それでも『ゴッドファーザー』があれだけの人気を呼んだのですから一概には。やはりいいものはいい！
長門 いい映画というのはおかしいと思うけれど、見なくてはならないという気持ちにさせる宣伝の上手さもあると思う。日本というのはお国柄で、スクリーンの幅が延びても奥行がちつとも延びないですね。太平洋戦争位しか激動の歴史も日本にないし、それも我々にとつては陰惨な記憶ですからね。だから東宝で『年少兵』を作つたって、そんなに見なくてはという必修を感じないんですね。我々が作らなければならぬ映画は何であるかといふことを考えると本当に困ってしまうんですが、僕らは、こういう逃げ方をしているんです。つまり僕自身は役者であるから素材になりたい。求められた時に自分の立場とか生き甲斐が出てきて、そこで花が咲けばいいと思つています。だから、映画界がこういう現状にあって僕たちが求められなくては仕方がないという諦め方をしてゐる訳ですが、淋しいですね。例えは力のある俳優さんがプロダクションを作つて、純粹な気持ちで自分の求めるものを作つても、それは自分の中のナルシシズムの中にあるもので、決して観客の求めているもので無いということがありますからね。

編集部 そういう観念的なものの多いなかで、長門さん達のなさつてるのは、具体的な面を非常に含んでいるから、そこで頑張つて欲しいと我々は思いますが。

南田 どんなにいいと思って作つても、見て頂けないものはやはり、いいものだとは思いませんね。

で国民を無視して天井裏でもつて作業するようなものだから、そういうことはやりたくないですね。舞台の上に乗ると、それを感じます。一つのドラマでも細かく笑わせていくということ、つまり、我々のセリフで以て感動させるということは、観客にひと膝もふた膝も乗り出させることになって、最後までお客様が付いて下さる。今日、国際会館で市役所の団体の人だったんですが、いいお客様でした。それと反対に、夜の部は、子供さんが多くて致命的でしたね。「静かにさせて下さい！」と場内アナウンスするんですが、通じなくつて、子供さんの声というのはすごいですから、台詞を取られるのです。そうなると役者の方も連鎖的になつて、作品からも観客からもどんどん離れていくんです。だから、恐いもので四十分も早く済んでしまつて(笑)嫌な感じです。阿

云の呼吸というのか、我々と観客の呼吸が合つてゐる時は本当にいい気持ちで、こつこつと小さな笑いがあり泣きがあり、それが大きなテーマに繋がつて、観客は見たという、役者はやつてよかつたという気持ちになるのですが。今の映画にはそれがないし、そこまで考えずに、ただ、センセーショナルな刺激的な題材で観客を引き込んで、それで押しまくつてゐるだけですからね。やはり一つのドラマツルギーを徹底し、密度を濃くして我々がその中でやらなくてはいけないと思います。一つ一つ非常に高度な芝居でもつてくみたてていかなくてはならないですからね。でも、これで三時間半舞台に金縛りで、日に二回は疲れます。今日は四十分も早く済みました。だから観客の芝居に子供を連れていかなくてはならない環境や、芝居を見るということはどんなことかといふことを、各々考えなければいけませんね。

南田 今頃は、物を買うとお芝居の券が付いていたりして、御自分で切符を買って見に行こうという人が少くな

★ほくの中に三亜松がとけてゆく

編集部 三亀松の方はいかがですか。一番大変な点は?

長門 一番困るのは、三亀松に対する非常なノスタルジアがあつて、見に来た人は僕にそれを求めるんです。まあ途中から僕の中で三亀松が溶けてくるのですが、昔、

三亀松のファンだった人でしょが、「どうだいその邊で一曲聞かせてくれよ」と声を掛けるんです。こちらは漠然としてしまって、やはり一声でも掛かると三亀松さんとの違和感を感じてしまつて、ドラマの中で観客にそれが感じさせないようにと思うので一層しんどいです。

また、作る方でも、例えば、奥さんが、「うちの三亀松はこうでした。でも、あんなことは言いませんでした」とおっしゃるのも分るのでですが、そこらへんは新しいドラマを製作しているんですからね。そつくりショージやあないんですから。そんなことになつたら人殺しをしの役をする時には、実際人殺しをしなくてはならなくなります。

編集部 「横堀川」とか「花は紅」とか大阪ものが多いですが、人に溶け込む、なりきるのがお上手ですね。

南田 私も役者なのにこんなことはおかしいですけれど、今回は出番が少ないので袖の方から見ていいのです。役者だから当然だとは思いますが、やっぱり好きなんですね。

長門 僕の場合、ある種の錯覚を起こにさせるのが上手いのじゃないかな、なりきるというよりも。キャラクターに長門裕之を同化して、ごまかす作業がうまいのです。でも「王将」の坂田三吉とか、「横堀川」の吾平とかいう単細胞の人をやるのが好きですね。だから昔子役でやつた、阪妻さんの「無法松の一生」なんて、これか

らやりたいですね。神戸では、あまり芝居をやらないようですが、お芝居を見る会などを作つて、その会員数が分れば我々もすぐに来れるんですが、そんな環境が欲しいですね。

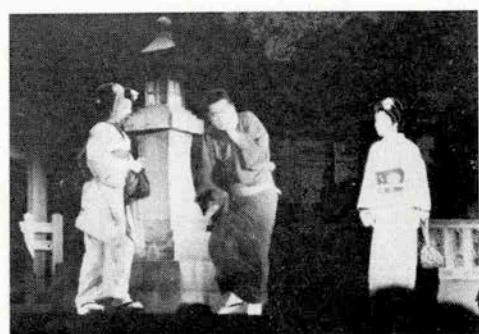
南田 今日なんか本当にざわざわしていて人形劇でもする方がいいんじゃあないかと思つたくらいですが、早く終ろうと誰が言う訳でもないので皆早くなつてしまつて。やはり、役者をうまく乗せるということは、いい芝居が見られるということですね。

長門 役者も人間だから、自分でもあつといい芝居が出来て、自己陶酔の中で自分がいい芝居が出来たと思う時に、観客からわーっといいう歓声が上ると、また次の機会で自分をハッスルさせるエネルギーにもなりますしね。

★神戸はどうしてこんなに美人が多いのか

編集部 神戸にはよくいらっしゃるんですけど?

長門 あまり来ませんね。「麻薬三号」のロケに、また石原裕次郎が日活から失踪事件を起こして花隈の松の家に隠れていた時に来ました(笑)。昨日も、松の



“三亀松”を演じる長門・南田夫妻

家へ行きましたが、松の家を通じて神戸を知った感じですね。ロケの時には神戸のいい所を随分見ました。昔、子供の時にトア・ロードの上にあつたトアホテルというところへ、よく連れていつてもらい、そこの時のなんとなくエキゾチックなムードが子供心に忘れられなくて、神戸へ行こう、神戸へ行こうと言つたことがありますね。でも、その頃、京都から神戸までという手だと言つて、びっくりしましたよ。当然ですよ

(笑)。家は龍安寺の壇家で、京都に二十二年住んでいたんですからね。

南田 私は、松の家さんはもちろんですが、よく買い物に来ます。この頃では、ちょっとしたものは東京にも有りますが、靴、ハンドバック類はほとんど神戸です。

長門 それは言えます。神戸で洋子が買ってくれた鞄、あれはなかなか安くいいですよ。

南田 オリジナルのもので、舶來でなくともなかなかいいデザインのものがありますね。

長門 それで感じたのですが、神戸というのは非常に人が多いですね。山本学、これは僕の女房より仲がいいのだが、彼が「神戸ってどうしてこんなに美人が多いんだ」って……。だいたい彼は女性には無頓着な方なんですが、名前が学だから知らないが、要するに物を探求

するです。それで彼の説によると、神戸は貿易港だから外国からの交流がおこつて、ある種の人種改革が起こったというんですよ。昔は、変にバタ臭くって、大和民族からは、あまりいい目で見られなかつたかも知れないが、今の我々の感覚で以て見るとしてもいいですよ。それに着ている物なども、東京などでは、雑誌そのままだったりしますが、神戸の人のおしゃれは個性的ですよ。

南田 本当に神戸ってセンスがいいわ。

編集部 それに神戸の人は個性的な人が好きですね。あまり、のつべら坊は嫌いで、長門さんや南田さんなんか皆、好きですよ(笑)。

★二人だけで見つめあつていたんです

編集部 お二人は『太陽の季節』からですか。もう長いですね。

長門 そうですね。あの時に知り合つたのだから十五になりますが、太陽の季節ではじめて知り合つて、それが終る頃には同棲していました(笑)。慎太郎さんにお礼を言つていののか、憎んでいいのか?(笑)。撮影中に僕が目線の置き所に困つて、たまたま彼女を見つめてい

ることになったのですが、撮影が済んで他の人はもう誰も居なくなつたのに、一人だけ見つめあつていたんです(笑)。

南田 本当にそうなんです。でも私好きでしたよ。映画界には、人のことを気にして行動する人が多いですが、この人はそれが嫌いで、そんなことすると怒るんです。

長門 お世辞も言わなかつたというか、口べたで言えなかつたんです。でも、目は口ほどにものをいうこともあります……(笑)。相手は誰でもいい、すれ違つた瞬間に香りがしたというだけでも男女間の出合いになると思うのですが、我々の場合、間に作品というものが介在しているので、作品の中で愛し合う一人をやる場合、今でもラブシーンをやる相手に好きになつてほしいと思つて、香水やなんかをプレゼントなどして愛される努力をするんですが、この人はそれが気に入らなくて……(笑)。それは僕たちにとっては資産・財産なんですからね。

南田 それは言えますね。自分自身も役者だし、私もそうするんですが、自分の亭主が自分以外の女性にてもなるとなるということはそれだけ魅力がなくなつたことですからね。

それは一般に言えることで女房一色の男性は嫌ですね。もちろんその反対も言えることだけれど……(笑)

長門 人間だからある程度の感情のもつれはあるでしょうが、十五年間というともうすべてをさらけ出してしまふからね。後は年代に順じた魅力をお互いに、中年、老年と作つていかなくちゃあ仕方ないです。またそれが新鮮にみえるのですね。洋子でも最近きれいになつたなあと思うのは、一つの大きな作品をやりとげた時です。よく喧嘩もしますし、その時はお互に罵倒しあいますが、第三者を入れずに二人だけで腹の中のものをぶつけあつた後、冷静になれは何てことないです。よくおしどり夫婦の秘訣などと聞かれますが、それだけですね。小川宏ショーンで人騒がせな離婚劇をして厄落しましたし、もう別れられませんね(笑)。

美しい時計をつくり続けてきました
スイスで1791年から……

No.9015 ステンレス側 35,000円
金 張 側 35,000円



ジラール・ペルゴー

永久に正確な時を刻むジラール・
ペルゴー。香り高い芸術の気品
をしのばせるデザイン。世界に誇る
スイス時計の逸品です。

GIRARD-PERREGAUX

特約店
 美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL331-1798
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL331-8798

人間復活のまち神戸に

浅田 武澄 △株式会社大丸取締役神戸店長△

河崎 保 △神戸シャツ△

佐藤 康 △元町画廊△

★すすむ街づくり

——いかがですか、店長さん、神戸へいらっしゃって一年になりますが、その印象は……

浅田 そうですね、もう一年半になりますが、来た当初は、やはり神戸が海と山に象徴される街ですから、自分的时间をみつけでは、まず縦の線をあるいてみました。トア・ロードですね。これが、あがるときには山が見え



浅田店長

下るときは海が見えるという非常にユニークなストリートでしょうね……。これが縦で、そして横は元町、これらに非常に興味をもつて見たのですが、なんとなく特長が失われているような気がしたのです。けれども、さびしいというような傍観者の態度ではいけない、ある意味

では、百貨店が一つの地域の核にならねばいけないし、同時に、開発のバイオニア的な社会的な意味もあるので、過去一年間、トア・ロードの方々、元町の方々、その他周辺の商店街の方々と手を握りあって進んで来て、お互いに目覚めてきたんじゃないのかという気がします。それに関連しまして、私どもの店は、三宮、トア・ロードと元町の両面に顔をもつ必要があると思うのですが、

その意味で、今度の日生ビル跡の工事は建築デザインの粹を集め立派な顔となるようになっていきますし、また、それが完成した暁には、三宮、トア・ロードと元町の両方に顔を向けた、地域社会の一つの核となるという理想にそういうものとなることと思います。ですから、来た当座はそういう批判の目で見ましたが、批判からは何も出て来ない、やはり建設の雄音からこそ新しい動きが生ま



佐藤さん

れてくるのですから、そんな意味では元町の方々に

も、随分いろんなことも申し上げ、またこちらも協力するということで、徐々にそういう機運になつて来たんじゃないでしょうか。横浜元町とのタイアップもある種の刺激を得る方策ですね。

佐藤 百貨店というものは、ある意味において、その都市への文化の顔ですからね。本当の庶民の顔ですね。だから百貨店に入れば、その土地柄がでてくると思うのです。そんな意味では大丸の存在というものは、單に商品を売つてゐるだけではなく、非常に大事なものがあると思うのです。

だから今、店長がこの一年半という重要な時期にいらっしゃるということは、人材を得たと思うのです。単に売上げを考えるだけではなくて、神戸市全体のこととも考えていらっしゃるということですね……。

やはり、我々のように大丸の両サイドの店を構える者にとって、大きな核ですからね。

河崎 一つの大きな核ですかね。
佐藤 そういうことです。またそうであつて欲しいですから。
 やはり、「神戸へ来た。百貨店→大丸」という風に、そこからスタートする。大体どの都市でも初めて訪れる

ショウ。

佐藤 まあ、やはり地方から來た人にとって、百貨店がある場所というものは街の中心ということですからね。

それと神戸を東京・大阪に比べて見ますと、他よりもスッキリとしていますね、街自体が……。そこへ行くと、東京・大阪はトロ臭い、その辺が神戸人の感覚を形成しているんだと思いますね。

先日、東京から画家の奥さんが沖縄へ行く途中、台風で足止めされてしまつたので、神戸を案内したことがあります。軽い旅行なのでラフな服装をなさつてゐるだけれども、それが神戸の街に少しも違和感を与えないわけですよ。決してよそ行きの服装ではないけれども、実にピタッとおさまるんですね。それで半日ばかりの見物だけれども、それが神戸の街に少しも違和感を与えないわけですね。(笑) この案内役がよかつたのかも知れませんが……。(笑) この辺が神戸の良さでしょ。うね。

浅田 元町の店を一つ一つ見ていくと、これは随分お金のかかった店ばかり並んでいますね、横浜の元町と比べるとよくわかると思うんです。それが総合的に集約された演出力がないんですね。横浜元町というのは、店舗自体はそれほど金がかかっていないようなんだけれども、全体としてみると、横浜元町のニオイがブンブンとして

都市では、そのようにふるまうのじゃないでしょうか。

浅田 そうですね。百貨店の生い立ちには二つの種類があるんですね。一つは、昔からの商店街とともに手をつなぎ、伸びてきた百貨店。我々の場合は、明治四十一年、一九〇八年、ちょうど六十四年前に元町に神戸大丸が出来たのですね。ですから元町百年の歴史で、元町が繁榮しているその真ん中に神戸大丸を置かせていただいたように、神戸大丸は商店街の中で育つて来た店ですから、その商業地域の発展ということと、その地域の核になつていかねばならないという使命は常にあります。その辺がターミナルデパートとは多少性格が違う、といえるで

すから。

いますね、きついくらいに。西部劇の舞台を見るような感じですね。ところが神戸の元町といえば、個々の店の豪華さにも拘らず、総合的にうつたえるものが多く、イメージが分散して力強いものがないような気もするんですけれどね。

河崎 結局、元町商店街には老舗が多いですし、センターハー街のような新しい商店街とは違って、親代々から継いで来ている所も多いし、気分的にゆったりしているのではないかでしょうかね。やはり新興商店街では、投下資金の回収が大きな問題ですし、一方元町では、ずっと受けついでいるということですからね。

だから元町の立ち遅れはこの辺にあるのでは……と、

時々思うことがありますね。おつとりしていて、本当に大旦那という感じですね。

佐藤 けれども、皆さんそれにお気づきになつて、これではいけないという考えになつて来ていることも事実ですね。

いぐら伝統だ、老舗だといましても、そこへ安住しておつてはね……。

河崎 会長の元町バザーの小林さんが若い人をどしどし抜擢なさつて街のリーダーとされてからは全体が活氣づいてきたような感じを受けますね。

★進出するコウベ・ファッショニ

——神戸シャツさんは、東京に店舗を、お持ちですが、百貨店と専門店という立場からいかがですか。

河崎 日本橋の東急百貨店が、三越本店と高島屋にはさまれて、非常に苦しい立場にあつたわけですね。そして、それをたてなおさなければ……ということだったのですね。それで御存知のように、デパートマンというものは、一年間、洋服関係をやれば翌年は地下の食料品へというようにして人事移動によって経験を拡げてゆくのが一つのパターンですね。したがつて、専門的にやる人が、売場にいない、今から養成するには時間が……といふことで専門店の導入にいたつたわけですね。

それで、プロパーと専門店、つまり、ネクタイ売場と隣接して元町バザー、シャツは私ども、靴はヨシオカ、婦人ものはセリザワ、家具は永田というようにして結合したのです。そして、デパートと専門店が互いに補い勉強しあつてゐるのですね。つまり、デパートにないものは専門店の方へ行つてもうとうわけで、お客様の交流もはかるということですね。

浅田 そういうふうに、コウベファッショニというものは非常に注目されているわけですね。その一つの形として元町バザーが銀座へ、神戸シャツさん、セリザワさん、永田さん……と、どしどし進出していつてますね。コウベファッショニの味を東京へとり入れることに非常に熱心だし、またそれが銀座の松舞台で立派に通用しているんですね。

河崎 昔は、新しいものは全て、神戸へ上陸してから、銀座へとそして日本全国へ、広まつていたのですからね……。流行の元締ですよ。

佐藤 そうなんですよ。だから東京の知人などでも、洋服なら神戸のどこ、と名指していきます。けれども若い人々はそうではなくて、コウベファッショニということで関心を示しているようですね。



河崎さん

原精一さんといつて、東京の有名な画家なんですが、大阪へ来るたびに神戸へもみえるんですよ、なぜかといいますと、神戸へパンを買いに来るというわけですよ。我々、毎日のようすに神戸のパンを食べているものはわからぬし、また、やそにもっとおいしいパンがあるかも知れないのに、やはり神戸のがいいっていうわけですね。この考えですね。神戸まで出てパンを買うんだ、という

そういうものが神戸の「あじ」なんですね。だから元町の老舗などが奮起すれば、きっと昔のようになる筈ですよ。それに神戸は、大阪、東京と違つて、点在しているのではなくて、こう一本筋が通つたところにまとまっているのですからね。なんとかがんばつて欲しいのですよたまには外へ出てみて、外から眺めてみることも大事ですね。中でドッパリとつかつていては何もわからませんからね。

河崎 そうですね。ですから私たちも東京へ店を出してみて初めて、東京のお客さんに神戸の良さ、名店を教えられたようなことが多いのですね。

★太陽のまち神戸

佐藤 感覚的な仕事をする連中、作家とか画家といったするどい感覚をもつた人々は特に、神戸が住みよいといふ場合が多いですね。便利というのか遊びやすいといふのか知りませんけれども……。神戸が住みやすいというからには何かそういう要素をもつてゐる筈ですね。

河崎 歴史的にも新しいまちですから、色々なものを受け入れる態勢があるのでしょうね。他都市と違つて流行をうまく自分のものにします。

浅田 京都とよく風土的に比較できるまちですね。

佐藤 京都は日本における中国だと思ふんですね。中国というのは自分のところにすべてがあるという思想でね外部からは攝取しないという考え方ですかから。京都と京都人の良さはそこにあると思います。神戸はこれとは反対ですね。だからその特長をもっと發揮しないと……。せ

つかくこれだけの港をひかえているんですから、港の香りを街へ発散させる工夫をして、港の街、うしろに青い山がある……やはりそこですね。横浜というと、また少し違つていて、南京街というか……。

佐藤 そういう少し違う面がありますね。横浜は「浜っこ」という感じがピッタリだけれど、神戸は何か「ベッコ」という雰囲気ですね。

浅田 横浜というのは、政治都市東京に対する、良い意味でのレジスタンスというものがあつたんでしょうね。自分達は政治から離れて、息のぬける自由闊達なニュータウンを作ろうという風土があつたのでしょうか。

ワシントンD・Cの近くにボルチモアという都市がありますが、ワシントンというのは政治都市で人間の生活に制約がありますけれども、それから逃れるためのような都市がボルチモアで、これは大変な都市です。人間の非常に奔放な生活が許される、そういうコントラストが、東京と横浜にもあるんですね。

佐藤 神戸は、東京大阪に比べて、狭いのですが、これが一つの利点でもあるわけですよ。東京で少し離れた二カ所で仕事があれば、もう一日かかりますからね。

それに関連して、神戸に地下道をはりめぐらす案があるので、そんなものは必要ないというのですよ。

浅田 神戸の街は地下道で勝負すべきではないと思うんですよ。これだけ山と海にめぐまれ、気候温暖な街は自然の中で楽しむべきですよ。

河崎 そうですね、山と海をもつと活かさないと……。浅田 サンフランシスコやロスアンゼルスは、太平洋岸の陽光さんさんたる街ですからね。

人間が自然を大事にしているんですね。地下にもぐつての生活なんて拒否してゐるわけですよ。ですから、サンフランシスコのチンチン電車などがあるんですね。だから同じような意味で、自然に恵まれた神戸だから、地上でこのすばらしい空気と緑と水の中で、人間がエンジョイしなければいかんと思うんですね。ですから神戸の場合

には私は地上賛成論者ですね、地下道よりは。

大阪なら変化の乏しい地形で、スマッジの街ですから地下道で勝負することもわかるけれど、神戸で、いたずらに地下に入つて人間生活の大半を地下で、そしてショッピングをといふのはいかにもさびしいですよね。ましてや、神戸市が「グリーン＆クリーン・コウベ」といっているのにね……。

河崎 大丸の原田店長の時に、私どもの永田会長とも話しあつて、今のオアシスロードの部分に、噴水、お花畠を作つて緑地帯にしようという話しが出ていたのです。

あの広い道に緑のプロムナードをつければ、また変わつたおもしろ味が出てくると思ったのですが、やはり道路交通とか、色々な規制で駄目になつたのです。

佐藤 どうも日本人といふものは、ほんの少しの距離でもクルマに乗りたがつていけませんね。

河崎 本当にセカセカしていますね。

佐藤 だから、神戸の利点を活用して、あの部分を緑地帯にするなどして歩く楽しさをとりもどすべきですよ。それで、今度大丸さんが、元町側の角も占有されます

とあの一帯の作りが変化すると思うのですが……。

河崎 あの角地を有効に使つていただきたいですね。それで、第三者的な見方ですが、デパートのエスカレーターがどこですごく奥にありますね。もちろんそこへいくまでに買物をということなのですが。これをもつと外へもつて来て、それも一基でなく、三基も四基も並べて、知らない間に内に上つているというようなのはどうでしょうか。それと一階は市民に開放するとか……。

浅田 今度の増築を含めての店作りの基本方針を、私は

「百貨店からコミュニティセンターへの脱皮」ということにおいているのです。これからそれをいろいろと肉づけしていくわけなのですが。

百貨店という考え方では、品物でうめつくすということとことたりけるけれども、コミュニティセンターとなりますと、人間のしあわせを与える場、社会開発の核とな

るべき場ですね。それで今回、四千平方米近い広さとなりますので、消費者に物を売るという狭い考え方から脱皮して、ヒューマン・インダストリーの概念にもとづいて、人間の心に潤いを与えるような場に育て上げていきたいと思っています。

百貨店の通路は、自分の建物内ではあるけれども、トア・ロード、元町通りにつながつていて、コミニティセンターとして地域開発に尽力していくと今度の増築にかかっています。これによつて初めて、コミニティセンターとして地域開発に尽力していくと思ひます。

佐藤 たしかに、百貨店といふものは、物品を売るだけでなしに多くの役目を負う義務があるとも思ひますね。たくさんの人を毎日集めるだけにそれだけの責任が生じてくると思うんですね。

ですから百貨店が都市の人の流れに及ぼす影響には非常に大きなものがあると思ひますね。

浅田 三宮と元町をつなぐショッピングゾーンに等間隔でそごうさんがあり、うちがあり、三越さんがあるというのは理想だと思ひますね。

佐藤 そうですね。大阪ではそれがかたまつていて、じゅうぶんに機能してないうらみがありますからね。

浅田 ですから、人間が歩くことの楽しみを失つてゐる現在にですね、歩く楽しさをとりかえして欲しいということで、そごうさんにも寄り、うちにも寄り、三越さんへ行くという流れの中で、歩きながらのショッピングという歩く楽しさを我々としても心がける必要がありますね。

河崎 人間復活ですね。

佐藤 ですから、道をべつたりとおおわざに、歩いておれば、空も見上げられるという形で神戸を残したいですからね。

(文責／編集部)

経済ポケット ジャーナル



り丸船上での環境保全会議

★「瀬戸内海環境保全知事
市長会議」開かる
ますます広がる瀬戸内海
の汚染を防止するための
「瀬戸内海環境保全知事・
市長会議」が八月三日前
十一時から、関西汽船「る

らん」（一、八七六）に
上で開かれた。
兵庫、大阪など沿岸十一
府県知事、三市長をまじえ
ての初の船上会議は昭和三
十九年六月、瀬戸内海の總
幹事會の坂井兵庫県知事を
議長に、政府から小山環境

同会議では国への要望と
して、①瀬戸内海環境保全
法（仮称）の制定②瀬戸内
海環境整備本部（仮称）の
設置③漁業保護対策の確立
④生活環境施設整備の特例
措置⑤清掃船建造の助成⑥
瀬戸内海環境保全月間の設
定などを申し合わせた。

故田中寛次氏

★田中寛次神戸新聞社長
死去

神戸新聞社社長の田中寛

り次が七月二十六日心不全
のため死去。七十一歳。

田中氏は島根県出身で、
大正十三年神戸高商（現神
戸大学）卒業、同年東京朝
日新聞に入社、昭和十二年

安谷満喜子さん（21歳）

神港ジャーナル社

「絵ならなんでも好き」という安谷さんの専攻は
グラフィック・デザイン。

神戸市の広報課が出している。「こうべ」のレ
イアウト等が現在の仕事。

Cute というのは、こういう人のことをいうの
でしょうか。本当に、もう可愛いって……。

合開発を主題に開かれたが
それから八年、今回は地元
幹事會の坂井兵庫県知事を
議長に、政府から小山環境

議長に、満洲國通信入社のあと満洲

弘報協会日本総社長を経て
同十六年神戸新聞社に入社
同二十四年神戸新聞社代表
取締役社長に就任。このほ
か日本新聞協会理事会議長
共同通信社理事会副会長を
歴任するとともに関西テレ
ビ代表取締役副社長を兼任
またラジオ関西、サンテレ
ビジョンを創立するほか、
神戸新聞会館を設立するな
ど、その生涯を言論界にさ
れた。

★神戸市が人間都市作りを
目標に新計画案を策定

神戸市は二十一世紀の人
間都市をめざした「新総合
基本計画」を進めることを
このほど明らかにした。四
十年に作つたマスター・プラン
が、ともすれば経済中心
生産第一主義に陥っていた
の反省し、人間中心の都
市作りをめざすためのもの
新マスター・プランでは、
①貧困からの解放②人間尊
重に立つた開発③人間環境
を守るための技術革新④市
民参加の都市づくりの四本
柱を掲げ、八月から原案作
成の作業に入り、来年八月
には二〇〇一年を目標とす
る計画を策定する。



安谷満喜子さん（21歳）

神港ジャーナル社

「絵ならなんでも好き」という安谷さんの専攻は
グラフィック・デザイン。

神戸市の広報課が出している。「こうべ」のレ
イアウト等が現在の仕事。

Cute というのは、こういう人のことをいうの
でしょうか。本当に、もう可愛いって……。

ない、後任として光田顯司

氏が神戸新聞社、デイリー

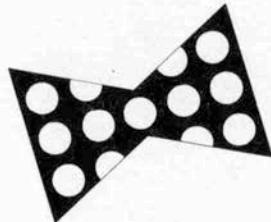
スポーツ社代表取締役に就

O-SHIBATA

● 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

SHIRT



新しい
ダンディズムー

- 大和屋シャツ
- 秋のコレクション
- 9月10日(日)より
- 於／国際店

紳士シャツの店

大和屋シャツ

- 国際店☆カスタムシャツのアトリエ
神戸国際会館1階 TEL251-0220 AM10時～PM7時
- 三宮店☆紳士シャツ専門店
三宮センター街 TEL331-6956 AM10時～PM8時

Goncharoff

名門の風格



愛するふたりを結ぶ手づくりの味



ゴンチャロフ
ファンシーチョコレート

'72～'73 船来、国産 サングラス
続々入荷品揃え！



MAKE UP すばらしいあなたに…
WITH ROYAL

めがねの御用命はお気軽に神戸眼鏡院で御相談ください

★自動車にてご来店のお方様は駐車券進呈！

元町店=神戸市立花隈駐車場

さんちか店=神戸市立三宮駐車場

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874～5

元町店は毎水曜日がお休みになりました
三宮店は第3水曜日が休みです

コンテナ

ハンドリング

システム

諸岡 博 熊

(阪神外貿埠頭公團工務部長)

埠頭での広大な土地を利用して

パンを取扱うためコンピューター

を活用して、なるべく省力化の方

向を目指しているが、将来は、埠

頭の無人化、自動化といった姿に

まで進むことであろう。

このシステムの概略を図によつて説明すると(左から右へと図の矢印に沿ってみられたい。左から右がパンの揚げ、右から左が積みの工程である)。

図(1)ガントリ・クレーンの下でス

神戸港のポートアイランドには国際海上コンテナを取り扱う埠頭が六バース開業している。一方、陸上は阪神高速道路との直結工事が進んでおり、他方、鉄道は国鉄線をポートアイランド内に引き込みで線路のない貨物取扱駅——

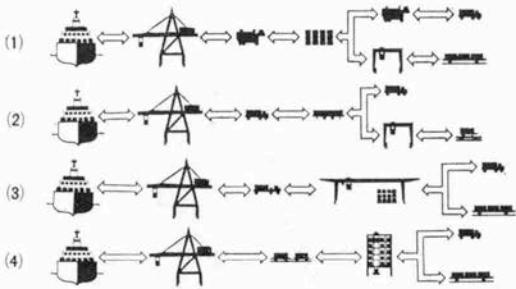
レールレス・ステーション構想があり、コンテナ船が運んできたコンテナ・バン(容器)を鉄道で輸送すべく準備を始めている。

コンテナ船用の埠頭は、在来の一般貨物船が接岸するそれと根本的に違つて①岸壁に自走式大型ガントリ・クレーンがあり、②背後にバンを置くための広大な土地をもつという特徴がある。したがつて、本船からガントリ・クレーンで揚げ降ろしたバンを、いかに上手に取扱つて、トラックまたは鉄道に運び出すかということ——この逆も同様にいかに搬入して本

埠に積み込むかということ——港湾におけるコンテナ・ハンドリング・システムの良否が、物的流通に多大の影響をもとうといふものである。

× × ×

CONTAINER HANDLING SYSTEMS



図(3)シャーシーにパンをのせて置

場まで運ぶのは図(2)と同じである

が、置場の整理をトランステーナー

ーという大型の門型自走クレーン

が行なう。トラックや鉄道への積み込みはトランステーナーで行な

す。

図(4)この方式はカイザー・システムといわれるものとして実動している

ものはない。

しかし、無人化、自動化の方向を示唆したものとして関係者の注目を集めている。これは無人トロッコがレール上を走りガントリーカーの下でパンをうけとり、置場にある立体倉庫に運び込む。

トラックや鉄道はこの倉庫の階からパンを直接受けとることとなる。

トランステーナーがパンを抱え込み置場まで運ぶ。トラックにはキャリアで、鉄道には小型門型クレーンで積み込む。

午後の海港

伊勢田 史郎

竹刀を提げた少女

しきりに鳴笛を吹きならす少年

白と黒の寛衣の尼僧ノーブが二人

それからはもう誰も来ない

淡い 紅いろの花片は散つて

合歎木の路は まっしろで 広い

亜麻いろの髪毛に

噴水の飛沫が いちめんに ちる

娘の草いろの悲しみ 充てる 埠頭の

瀝青の匂い

石階を降りてゆくと

虹は まっさおな空に溶解してしまった

たそがれ 君の好きな 黄昏

雲 まつかに染まる 山々

三日月の塔 鳴らない 鐘

満天の星 屑

瞬く 緑いろの夜光虫

前橋灯をともして 一隻のタグボート が
湾から 脱けていつた

きらめく航跡 不可解な「青」を曳いて





傾斜した町にて

多田 智満子

風はここでは水平に吹かない
山から吹きおろすか

海から吹きあげてくるかどつちかだ

帽子は飛びやすく

スカートはむやみにひろがりやすい

くちびるもめくれやすく

歯は曝されて風化している

かわいた砂土に小便をすると

細い潮流のよう海に向つて流れ出す

ここでは人は肥満してはならない

ころぶと樽のようにころがり落ちるおそれがある

ある

するどくやせていて

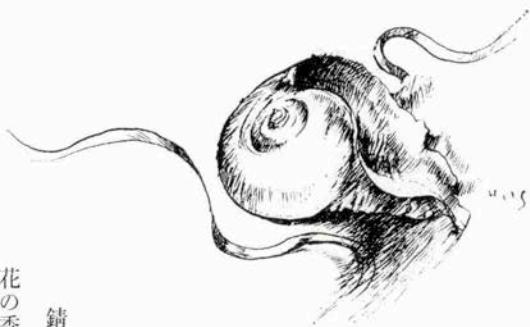
楔のさぎように斜面につきささつていなければならぬ

らない

公園

松尾 茂夫

WATANABE



駒ヶ林沖の難波船を眺めてから
ライジング・サンの棧橋を渡つて

若宮の松林にぬける

小石を蹴つたり

きゅうに駆けだしたりして

子供たちのたどりつく公園はとおかつた

錆色の廃虚の街の

花の季節はいつも何処かで喧嘩があつた

桜の樹間にひかる海 淡路島

縁遠いのどけさを背景に

少年たちは手製のカメラに

いっぱいの笑顔をつくつた

いまは駒ヶ林の浜も消え

この公園も人工造園になり果てたが

林のなかにわけ入ると

徑のくねりが記憶に重なるあたりから

ふいに朽ちたベンチ・ブランコや

宝かくしのほら穴があらわれたりする

六甲山頂上

福井 久子

午後七時

ゴオゴオーラーなる

テラポラアンテナをめざして登る

吹き上の風が筆を山はだにねかせ

海の位置が高くなる

風にあふられながら頂上に立つと

はやくも薄すみ色が海上や沿岸にのび

太陽と無縁の顔をのぞかせ始めている

帶状に光る水平線の上

紀州 淡路 四国の山並が浮き

距離感をはぐらかし

山も木も水も街も人も

重量を放棄したよう

白い月に照らされ夢幻の姿をみせる

西をむけば

灼熱の太陽は播州の雲に沈み

昼と夜とが交替する

午後八時



尾根

丸本 明子

尾根を

陣太鼓のサウンドが

かけぬける

円錐の頂点で

舞う舞姫の

足裏はやぶれ

天は天と天のつなぎ目で

語る場を持つとうとする

かけ下りてくる

馬の幻覚は

春後に迫つてくるもの

破れ布で顔をおおって笑っている

聖者よ

六甲山系の尾根の太陽がまぶしい

エゴのロープがはげしくゆれる

陣太鼓のサウンドが

かけぬける
かけぬける

坂道は列柱のよう立ちのぼり
銀色の夏に自熱して

ここだけに 虚構の空間を創る
港からの微風が奏でるクラブサン

各務 靜
豊和 物集画

六甲山系は聖なる時を長長と

千メートルの緑のねむり

山手聖ミカエル教会の十字架は

空高く貼り付いた神の視線

ぼくは喫茶店の窓際に座り

過ぎてゆく恋人たちを見送りながら

熱いコーヒーをゆつくりとする

泡立ちながら増加するエントロピーの夏
退いてゆく街の風景の中で

ぼくの瞼に降りてくる光のカーテン



HISAHISA

街で

心屈したときなど

安水 稔和

私は道を歩くのがすきだが、
人が道を歩くのを見るのもすきだ。

男でもいい。女でもいい。子供でもいい。
わきめもふらずに。ゆっくりと。

下をむいて。

立ちどまつたり。ひきかえしたり。

横切つたり。追いかけたり。

ぶつかつたり。

しゃがみこんだり。

それでも。わきめもふらずに。ゆっくりと。

人が道を歩くのを見ていると、

自分が道を歩くのと同じように、

やがて、ゆっくりと、

確かなものがあらわれるようだ。



神戸の女を見る

君本 昌久

神戸の女を見る

気づくことのない坂道

途中でふり返つてごらん

港が光つている

神戸の女を見る

ゆるやかにつづく山脈

もしもそれが夜だつたら

街は闇を愛している

神戸の女を見る

過ぎ去つたものには

未練もなければ嘲りもない

空では言葉が眠つている

神戸の女を見る

何時でも何処でもはためて

そのくせほんのすこし涙にめざめ

祭で世界を踊つている



どこか違う

朝へと

中浜 瞳子

小道を抜けると

海があつた

岩かけには過ぎた時間が
ゆるやかに満ちて来ていた
小魚の群れが揺れて
透明なメルヘンを作る

ほころびを繕い

針目を拾う日常に

どこか違う朝へと続く
目覚めの抜け道をさがして
風が坂道を駆け下りる

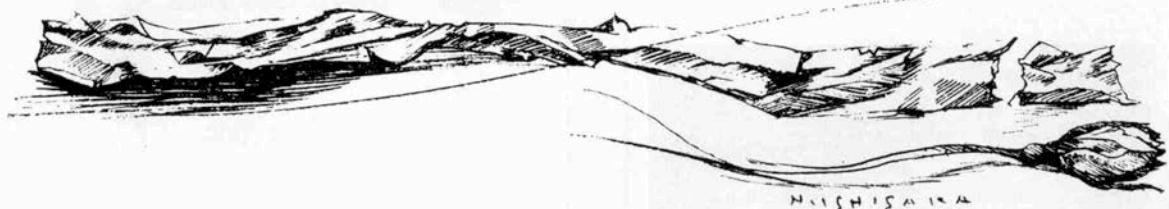
今日より明日へ
ひとつ指針を見つめて
真っ白なヨツトが
横切って行く



離宮公園

で

足立 卷一



風が

神さんのように遊んでいる

一輪車に乗つて

ちいさな円周を無限にえがきながら。

そのとき

おれの少年のような少年

おれの女友だちのような女たち

おれの哲学者の友のような男が

見えるはずのない水平線を

噴水の視線で眺めていた。

その夜、雷雨があつた。

すると、あの連中は

白い同形の人体に一変し

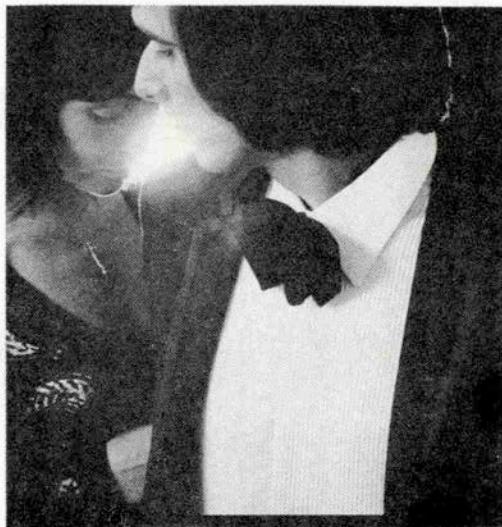
肩を寄せてベンチにならび

甲殻類の脚を垂らし

固い全身に雨を流していた。

両眼を伏せたまま。

華かな日を飾るシックな
ダンディズムはこころよいもの



よろず御襷衣縫上処

神戸シャツ

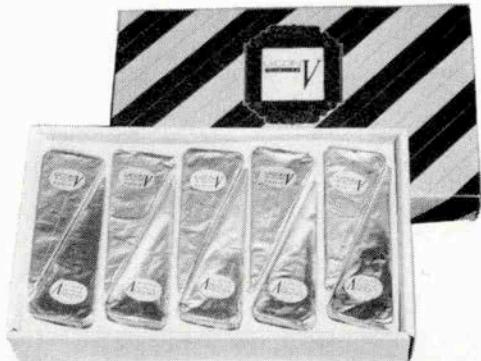
神戸店—神戸大丸前 331-2168
東京店—東急・日本橋店 1階 211-0511内線219
東急・渋谷本店 4階 462-3433
広島店—広島・福屋 1階 47-6111 内線440

新発売

U-CON
ユーコン・ブイ

●ソフトなクリームにライスパフの舌ざわりがほどよくマッチし、こころよい風味を味わって頂けると存じます。

20ヶ入 ￥ 1,000



北欧の銘菓



ユーハイム・コンフェクト

本社・工場・熊内店■神戸市東灘区熊内町1(市立美術館東隣)

TEL 221-1164

三宮センター街本店■神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 331-2421

TEL 391-3558

さくらちか店■神戸三宮地下スイーツタウン

★劇団四季神戸公演を前に

若い人にうけるロックミュージカル

「フィガロの結婚」国際会館 9月14日



三田和代



井関一



田中紀久子



緑川 薫



——モーツアルトをロックにしてみてどうですか。

井関 モーツアルトを自由にアレンジしているのですが

芝居をトータルしてみるとそれでもやはりモーツアルトは聞こえてくるといわれましたね。若い人々にはこれはCCRのスタイルだと、シカゴだと、カーベンターズなどと色々の声がありましたけど、ぼくらはロックはたいして予備知識なしにランクにやっているんですよ

三田 この「フィガロの結婚」ボーマルシェの原作は、非常にガサツな感じで作品の舞台も数年するとフランス革命が起るわけです。無遠慮なエネルギーが底に流れているわけで、フィガロの魅力は今の現代にも通じるので、それを唄と踊りで、アメリカから帰つて来た飯野おさみさんが演じて、とても好評だったのですよ。

緑川 喜劇はむつかしいですね。二〇〇時間の稽古の末舞台の前日浅利さんが全員を集めて、ここまで稽古をしたからあとは一日一日自由にやれ、そのかわり絶対ワルノリしちゃだめだよって(笑)。

三田 もうノリ出すと、ノッティっちゃう(笑)ドタバタ喜劇はいけないよといわれて、ほんとにムツカシイ!。

田中 今度も音響は16チャンネル持つてきますので音は自信がありますね。

井関 弘前では高校生の貸切り公演があつて、さすが若い人たちだから非常にのりましてね。だからなるべく若い人たちに見てほしいですね。

——さて、C調フィガロがどこまで神戸っ子にアピールするか?

ロックミュージカル「フィガロの結婚」を持って、劇団四季が九月十四日神戸国際会館で公演する。演出は浅利慶太と宮島春彦。音楽は福井良と内藤法美。振つけは山田卓。モーツアルトのオペラ「フィガロの結婚」を現代にあわせてロックミュージカルに仕立てた神戸出身の宮島演出が見もの。公演にさきがけて北野クラブへ神戸青年会議所の文化交流委員会が招いた出演者の井関一、緑川薰、田中紀久子、三田和代さんにインタビュー。



朝霧一西明石バスルート都市軸計画



▲バスルート都市軸の核—明石舞子団地地区センター



▲神戸学院大学の位置づけも変わってくる

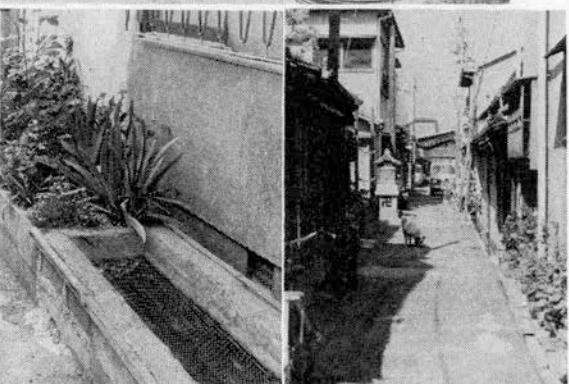
●西神と呼ばれている須磨から西の丘陵、平野一帯に明石舞子団地、多聞団地をはじめとして、玉津の区画整理事業、西神ニュータウン開発と大規模な住宅地の造成がつづいて、東垂水、舞子、玉津といったスプロール市街地や密集市街地とともに、西神の市街化は急ピッチです。

●その西神一帯のうちでも、明石の市街地を南にひかえた明舞団地から伊川谷、玉津一帯は近郊農業地帯から郊外住宅地へと急激に変貌をとげていこうとしていますが、ただ一面に均質な町がだらだらと続いていくおそれがあります。

●そこで、新しい市街地計画の方法のひとつとして、バスルート都市軸を考えてみましたとえば、三宮から六甲へ、青谷を通り山手住宅地のなかに、学校、美術館、店舗、共同住宅といった主要施設をつなぐ形でバスルートが入っています。それと同じようなものを明舞団地から伊川谷、玉津を第1神明道路と平行して東西に貫き西明石に結ぶ地区バスルート幹線を設定しその道路沿いに高校、大学地区センター、近隣公園、共同住宅地などを計画的に配置していくというものです。

●地区の人達がもっとも身近に利用でき、「ああ、あの場所に」と共通のイメージをもつバス通りに、しっかりした町の施設軸（都市軸）を配置して、市街地全体をひきしめていくとともに明舞団地の地区センターや神戸学院大学なども、そのルートに沿った拠点のひとつとして、新しい意味が出てくることでしょう。

（小林郁雄）



▲手作りの水槽には金魚もいる

▲路地の守り神一地藏尊

☆路地はいろいろなもので、飾られ、いろいろされています。そこに生活がある以上、さまざまな装置があり、さまざまな活動を支える道具によって路地空間が構成されています。それらを、生活・緑地・設備といった三つの生活環境構成要素にわけて考えてみました。☆生活環境構成要素には、日常生活に必要な物干、ゴミ箱・ポリバケツ、ブランコ・三輪車などの子供の遊具、乳母車・自転車といった乗物、籐のイス・夕涼みの縁台などがあります。

☆緑地環境構成要素としては、花壇・小庭、植込み・樹木、植木鉢といったものが路地を豊かにしています。植木鉢には、木の箱・桶・火鉢など実にいろんなものがあり、写真のような立派な手造りの水槽に金魚が泳いでいるものが組み込まれています。

設備環境構成要素には、側溝、マンホール電柱、消火栓、といった公共的な設備があります。

その他に、木のきれはしやらガラクタの他に、忘れられないのは、路地の守り神のような地蔵尊です。40~50cm立方ぐらいの社が、コンクリートや石の基壇の上に乗って、卍のマークをつけています。

☆路地は、こういったいろいろなものによって、個人のものでも、公共のものでもないセミパブリックな空間として息づいています。誰もが掃除をし、誰もが使っていくといった近隣社会のみんなのものとして、みんなが大切にしているのです。

〈小林郁雄・写真／奥井正造〉

●世界の福祉施設ルポ 〔18〕

アメリカの

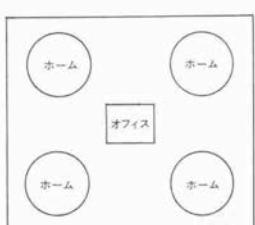
グループホーム

橋 本 明

らの四つのグループ・ホームはすべてこの「シアトル・チルドレンズ・ホーム」の敷地内にあるため、こういつた養護形態は「コテッジ・システム」とよばれている。事務をとる職員や教師のオフィスも同じ敷地内の別の場所にあるので、子供の指導をする職員は、オフィスから敷地内の子供のホームへ出向いていくことになる。最近完成したばかりの新しいホームにみとれていると、「グループ・ホームというのはとてもお金がかかるんですね。それが頭痛のタネなんですよ」とディレクターの女性が横で笑う。

それはそうだろう。数十人、数百人を一つの建物の中にいっしょに入れておけば安上りだが、数人づつに分けて一軒一軒建物を建てていたら建築費、維持費、設備費、人件費などは莫大な金額になる。わずかの資金や寄附金でまかなっている福祉事業家にとってはやはりこれは頭の痛いことには違いない。

★Agency Owned-home システム



Agency Owned - home
グループ・ホームは一般地域社会に分散している

Cottage System
グループ・ホームはすべて施設内にある

大きな施設から小さな施設へ、そして町のはずれから町の中へ、と施設は移行しつつあるが、町の中で少人数単位で子供を養護する方法にグループ・ホームというのがある。これは多くてもせいぜい二十人ぐらいの子供たちが一軒の独立家屋で生活し、一般的の家庭と何ら変わらない家庭的雰囲気の中で教育や生活指導をうけながら、周りの社会に適応していくための準備を整えるのである。

グループ・ホームといつてもアメリカにはいくつもの種類があるので、私が訪れたいくつかのホームを例にとつて説明してみよう。

★Cottage システム

シアトル市のクイーン・アン・ヒルという小高い丘の住宅街の中に「シアトル・チルドレンズ・ホーム」という情緒障害児の治療教育施設がある。これは一八八五年に一市民の寄附によって建てられたものだが、その頃は三歳から十八歳までの子供を七十人八十人も一つの建物に収容していた。しかし、こうした大家族的な、食べて寝かせるだけの保護施設は子供たちのために決して好ましいものではないという考え方から、一人一人の子供により適切な個別指導ができるグループ・ホーム形式がとり入れられるようになった。現在ではここに四〇人の子供たちが住んでいるが、一〇人づつが一グループとなつて四つのグループ・ホームで生活している。しかもこれ

私は滞在していたシアトル北部に「ライサード・チャイルドセントラル」という、やはり情緒障害児の治療教育施設があつた。四方を林に囲まれた大変環境のよい所で、十エーカーの敷地の真中にオフィスがあり、その囲りに学校、保育所、治療施設などが並んでいる。子供は、もしできるなら家庭から離さず

治療に通うよう指導しているが、家庭内の人

間関係に問題があるような場合は子供を一時的に家庭から離してここ施設で治療を行なう。

家庭から離して治療を行なわざるを得ない年長児のために、このセンターは同じ敷地の中ではなく、全く離れた別の場所に「ボーリーズ・カティッジ」と「ガールズ・カティッジ」とよばれる二つのグループ・ホームをもつていて

いずれのホームも、自分の家へは帰れず、しかも里親家庭に預けるのが難しい思春期の男女を対象としたグループホームで、八人が一軒のホームに生活しながら、こそこそ定期的にセンターにカウンセリングを受けに通う。

この場合のグループ・ホームの特徴は、オフィスからは全く離れた一般地域社会の中に独立して存在するといふ点である。しかも、これらのグループ・ホームはエージェンシー（機関）が所有しており、エージェンシーの管理のもとに緊密な連絡をとりながら運営されているので、こういったグループ・ホームの管理形態を、Agency Owned・homeシステムとよんでいる。この場合、子供たちの指導にあたる夫婦の一方（多くの場合は妻の方）は機関の職員であり、機関の指示に従つて家庭的雰囲気の中で子供の個別指導にたずさわる。

こうして子供たちはいくつかのグループ・ホームに分かれ、シートルのキャピトル・ヒルという閑静な住宅街に、「パークビューム」という、精神薄弱児専用のグループ・ホームがある。普通の住宅をグループ・ホームにあててるので、他の住宅と全く区別がつかず、さがしあてるのである。中に入ると二〇歳そこそこの若い夫婦が二人で六人の精神薄弱児の世話をしている。子供たちのうち四人は幼児で、あとの二人はこのホームから近くの職業訓練校に通っている。

精神薄弱児をこのように住宅街の真中で少人数で教育しようという試みは他にも余り例がないらしく、このホームもまだ一年前に始めたばかりのバイロット・プロジェクトだという。人里離れた大きな施設で養護するのと、街の真中で小人數で育てるのとでは、子供自身にどんな違いがあらわれるか、また近隣社会に対してもどんな影響を与えるか、まだ答えは出でていないが興味深い問題である。

それでも、新しい試みというのは何をやるにしても苦労はつきものだが、特にこういう種類の仕事の場合第一線にたつて現場で働く者の苦労ははかりしれない。若い夫婦の疲れきった表情をみて、私はこのプログラムの難しさをひとしお感ぜずにはおれなかつた。こうした専門のグループ・ホームは、アメリカやヨーロッパではもうかなり普及し、別段珍しいものではないが日本ではまだ一部で実験的に試みられている程度で一般化するまでには至っていない。



グループ・ホームの一室でくつろぐ少女

れて一般地域社会の中に家庭的単位の一つとしてとけこみ近隣社会との交流をはかりながら、将来自分の家庭やもとの学校、あるいは職場にもどつていくための指導をするのである。

★パークビューム・ホーム

施設方能主義もそろそろ脱皮して、日本でもきめの細かい養護方法をもつと研究していくものではないだろうか。